

株式会社ジェイコム湘南・神奈川

湘南・鎌倉局および横須賀局 2局合同

2022年度 放送番組審議会 議事録

2022年度の放送番組審議会は、2023年2月17日(金)に開催された。

<放送番組審議会委員> (五十音順)

—ご出席—

稲岡 輝雄 様	亀井 康人 様	永妻 和子 様
堀 一久 様	堀口 すみれ子 様	堀江 敏様
山田 秀幸 様		

事業者側から局の現況に加え、J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)、および昨年度の放送番組審議会で審議された内容に対する改善点について報告があった。

【質疑応答・意見交換】(山田会長による進行)

委員 10P「WEEKLY トピックス(神奈川)番組概要」に編成①、②、③とあるが、湘南エリアで編成①、②は視聴することが可能か。

事業者 コミュニティチャンネル上では編成①、②は視聴することができない。ケーブルテレビとしては、放送エリアの狭域化を目指したい。地域情報の放送するにあたり放送エリアの細分化は大切なことと考えている。

委員 「LIVE ニュース」は他のエリアも視聴できるのか。

事業者 視聴できる。「LIVE ニュース」は曜日ごとに各エリアからの放送となっている。

委員 実際の視聴者数と加入者の属性などの調査をされているか。

事業者 調査しているが、詳細はお話ができない。それぞれの番組に対してのアクセス数はわかる。また番組ごと、時間単位で視聴者の把握できるので、番組制作に役立てようとはしているが、現在のところ効果的な改善策に至っていない。年齢層は高めの年齢層の方にご視聴頂くことが多い。

事業者 ケーブルテレビのチューナーが設置されている加入者については視聴率が取れている。一方で未加入者の場合はチューナーが設置されてなくても視聴できるので、視聴率はとれない。従い、全体的な視聴率は想定値である。

委員 民放と変わらず洗練されすぎている感がある。隣の子供たちが出ている等のアットホームさも必要ではないか。各自治体や商工会と連携を取り、事前に施策やイベントの情報を取得し、自治体とケーブルテレビ両方で盛り上げる仕組みを作ることができると、事後報告的な情報提供にはならず、よりコミュニティチャンネルの認知度が広がっていくのではないか。

委員 7P「LIVE ニュース自治体別編成&キーステーション」の件、現在の場所ではなく、別の場所がキーステーションになる可能性はないのか。

事業者 基本的なベースは記載のとおりであるが、大規模なイベントがある際には、そのイベントの場所をキーステーションにして生中継することもありえる。

委員 「ど・ろーかる」のアプリがとても面白い。エリアを跨いだ情報の横連携が良い。この「ど・ろーかる」アプリをどれだけ多くの方にインストールされるにはどうしたらよいのか。その販促ができればよい。「ど・ろーかる」アプリで、オンタイムで視聴できるものが増えればよいと思う。

委員 藤沢駅北口のサンパール広場で「LIVE ニュース」をやりたかったが。電波が微弱で実現しなかった。地下道には光の通信環境があるので地下道では放送可能であるのではないか。

事業者 無線で中継電波を飛ばして生中継する場合もあり、その場合は事前調査を行い生中継実施可否を判断したい。

委員 横須賀局の地域活動（6P）に記載あるピンクリボンの件、藤沢でもピンクリボン活動を実施しており、歌手の麻倉未稀さん、元プリンセスプリンセスのドラマーの富田さんが、それぞれ実行委員長と副実行委員長で活動中である。横須賀でのピンクリボンの活動とコラボレーションできたら面白いのではないか。J:COMの防災端末は、多くの人に使ってもらいたい。3月22日藤沢駅前のサンパール広場で、「駅前防災キャンプ」を開催する。そのプログラムの中で藤沢警察にご協力をいただき「寸劇」をやる予定である。ぜひ取材して欲しい。

委員 全体を通しての意見であるが、地域の課題やイベントを生中継や録画をされてい

るので、地域で失われているコミュニティの再生に寄与するものであるので、今後とも様々なコミュニティを取材し放送していただきたい。

委員 「WEEKLY トピックス」で取材された、藤沢遊行寺、ワインまつり、商工会議所の青年部感謝祭など、過去の映像を事前告知するとそのイベントの集客に貢献するのではないかと思う。また、スポーツの取材に力を入れているのは、すばらしいことだと思うが、どのような視聴者をターゲットにされているのかお聞きしたい。

先日ラジオの番組（ラジオ深夜便）で聞いたのだが、ボニージャックスは現在3人で活動しており、そのうちの一人のメンバーが90歳ではあるが、老人ホームに勤めていることを楽しそうに話をしていた。そういう話を聞いて元気をもらったので、後期高齢者を元気づけるような番組があってもよいのではないか。

事業者 イベントの事前告知は「LIVE ニュース」、イベントの事後告知は「WEEKLY トピックス」で取材するという区分けになっている。

視聴者層は、年齢が高めの方が多い。高校野球や学童野球を放送しているが、出場している選手の親御さんや親戚の方も楽しみされている方が多いので、その繋がりで視聴者層が広がっていけばよいと考えている。

委員 茅ヶ崎の「浜降祭」は例年楽しみにしている。また、湘南国際マラソンの生放送で映る湘南のすばらしい景色を楽しみにしている。湘南のすばらしい景色をさらに多くテレビ画面に映して欲しいと思っている。

委員 情報発信が増えたことを感じた。事業者の努力の賜物だと思う。「テレビ年賀状」について、市長の一方的な話ではなく、インタビューや対談形式などで、市長と会話のキャッチボールをすることで市長の考え方を引き出す番組があってもいい。

委員 これからのコミュニティチャンネルの方針を知りたい。

事業者 番組は発信型、事前情報を強化して行きたい。番組を狭域化し、より地域の細かい情報を出し集客を促すことで、地域の活性化に貢献したい。番組の制作費は高額であり、加入者から頂戴した利用料で賄っている。従い、加入者をより増やすことでよりよい番組制作を実現する「好循環」を確立したいと考えている。なお、このたび「地域サポーター制度」を作ったことも番組制作に寄与するものと考えている。番組審議委員会は、2023年度より湘南・神奈川法人で一つにしたいと考えている。また、コミュニティチャンネルだけではなく、地域の方からの様々な事柄についての意見交換もしていきたい。

以上